

特集

中部地区天文教育研究集会の報告

吉住千亜紀（飯田市美術博物館）

1. はじめに

2019年6月1日（土）～2日（日）にかけて、長野県志賀高原で日本天文教育普及研究会中部地区天文教育研究集会が開催されました。今回は8月の年会に向けた準備委員会も兼ねており、会場となる志賀レークホテルを実際に見てみる・使ってみる会となりました。

当日は幅広い世代から22名の参加があり、様々なテーマで10件の研究発表・報告と年会準備会が行われました。

2. 会場について

志賀高原は長野県・新潟県・群馬県にまたがる上信越高原国立公園のほぼ中央に位置しています。標高が高く、一年を通じてアウトドアアクティビティを楽しめるリゾート地として知られ、ユネスコエコパークにも登録されています。会場の志賀レークホテルは蓮池湖畔に建ち、美しい自然に囲まれ、静かな環境で思う存分学び、楽しむことができます。

3. 研究発表・報告について

研究発表・報告は以下の通りです(敬称略)。

- 伊藤信成（三重大学教育学部）
「日の出の方角についての意識調査結果：三重大学教育学部の場合」
- 内山秀樹（静岡大学教育学部）
「中高生による軌道上望遠鏡超小型衛星 Stars-AO（あおい）を用いた観測研究立案プロジェクト」
- 小林尚輝（静岡大学教育学部）
「人工衛星電波受信実験のための教員向け Web サイト作成」
- 前田昌志（三重大学教育学部附属小学校）

「理科の見方・考え方」を働かせる授業～小学校第3学年「太陽と地面の様子」～

- 宮下和久（塩尻市立丘中学校）
「圭表儀による観測・研究の成果を史跡の保護に生かす～会津藩校日新館天文台跡と岡中学校科学部天文班の活動～」
- 布田帆風・中山将大・野呂健吾・磯野巧・伊藤信成（三重大学教育学部）・熊野市観光協会・熊野市観光スポーツ交流課
「熊野市での星空の観光資源化の取組み：2018.12-2019.5の活動」
- 衣笠 健三（国立天文台野辺山）
「長野県星空継続観察『長野県内の系統的な夜空の明るさ測定』」
- 矢治健太郎（核融合科学研究所）
「ひので衛星といっしょに太陽を観測しよう 2019」
- 高村裕三朗（愛知県立一宮高等学校）
「観測所のハーフビルドとこれから」
- 大西浩次（長野高専）
「人工衛星の太陽反射光からオゾン量を推定する」



図1 研究発表の様子（写真提供：松岡義一）

4. おわりに

会場の志賀レークホテルの皆様には、様々なご配慮をいただきありがとうございました。年会にご参加の皆様には、中部地区・長野県志賀高原より、心からお待ちしております。